

## 目次

浅野会長挨拶	p1
オンライン落語会	
『老後について』アンケート集計	
『老後について』会員執筆	p2
老後の備えについて	
我が年代の「セカンドライフ感」	
老後の楽しい暮らし方	
全国分会だより	p3
北海道分会、関西分会、九州分会	
各研究会だより	
イザ研、シバ研、トリ研	
乗兼さん商学部講演会	p4
都心キャンパス整備状況	
57ネット会員の著作紹介	



白門 57 ネットでは、昨年中止を余儀なくされた夏の恒例イベント『中大の、中大生による、中大生のための白門 57 ネット落語会』を、今年は7月11日(日)にオンライン(ZOOM)にて開催いたしました。ご出演頂いたのは若手売れっ子の林家つるこさん(文学部出身)。



林家つるこ

中央大学学生会白門 57 ネット支部会員の皆様、こんにちは。会長の浅野昌宏です。白門 57 ネット通信第8号をお届けするに当たり一言ご挨拶申し上げます。

先ずは、昨年から続くコロナ禍のため本年も当会の総会は中止とし、議案は書面にて承認決議されましたことを御報告申し上げます。

閑話休題、ここで57ネットについて少しお話しします。57ネットは同期会です(当たり前ですか?)。学生時代に実際に何らかの繋がりがあり卒業後も付き合いがあるものを同窓会とすれば、我々は、当時面識は無いけれどもあの時あの場所で同じ青春を過ごしたと言う間柄であり同期の集まり、それが同期会です(厳密な区分ではありません)。私は同期会の目的は同期の親睦と卒業した母校への恩返しまたは貢献の二つであると思っています。

## 夏のイベント報告(オンライン落語会)

演目は「反対陣」古典落語につるこさんの若さ溢れる動きが加わり、中大多摩校舎付近の様子を織り交ぜ大いに笑わせていただきました。

もう一つは、さがみはら若手落語家選手権で優勝に輝いた演目、「しじみ売り」。ジーンと心にしみ勇気をもらえる演目でした。

つるこさんは先の見えないこの状況にあっても、必ず良いときはやってくる。そんな思いを伝えたくてこの演目を選ばれたそうです。

講演の後は、懇親会(ZOOM飲み会)も開催いたしました。

## 会長挨拶

皆さんは社会人として仕事関係や地域或いは趣味等で様々な集団に所属されていると思いますが、我々はそれらの様な関係性の強い集団ではなく、同じ時期に同じ大学を卒業した仲間と共に会の活動を通して人生に少しの彩りを添える、そんなしなやかな集団として今後も親睦を深めていきたいと考えています。

そして、このコロナ禍で現役の学生が大変苦労している事はメディア等で報道されている通りです。大学もそんな学生に対して様々な対応を取っており、我々もそれに微力ではありますが協力するべく本年度の予算には大学への寄付金を計上し、母校への恩返し・貢献の一步として進めて行く予定です。

さて、来年2022年は我々が大学を卒業して40年の節目の年になります。また白門 57 ネットは卒業21年目の2003年に設立され、来

年設立20年目を迎えます。そこで来る2022年、コロナが落ち着き大人数でのイベントが可能になった暁には、我々同期の第二の人生のスタートと位置付けた卒業40周年記念パーティーを行いたいと考えています。これからの長い人生を一緒に楽しんで参りましょう!

コロナは小康状態ですが、くれぐれも健康に留意しご自愛ください。今後とも白門 57 ネットをよろしくお願致します。

(浅野昌宏)



もちろんつるこさんにも参加いただき普段は聞くことのできない落語会の裏話や、つるこさんご自身のプライベートまでお聞きし大変盛り上がりました。初めての試みは大成功だったと思います。



開催の裏では、慣れないパソコン、スマホ操作に四苦八苦しながら、オンラインでの打ち合わせ、リハーサルを重ねました。

またつるこさんの事務所の方にもご指導いただき助けられました。リアルで開催できない寂しさはありますが、オンライン開催だからこそ普段は参加にご負担がかかる地方分会の皆様にも多数参加していただけたことが、新たな価値の発見となりました。

(二川友子)

## 『老後について』アンケート集計

白門 57 ネットでは、すでに60代になった会員の「老後」についての意識について調査すべく役員・運営委員を対象にアンケートを実施しました。その集計結果は下記のとおりです(有効回答数=30)。

- 質問1. 自分にとって「老後」は何歳からだと思えますか  
65歳:17% 70歳:57% 75歳:10% 80歳:3% それ以上:13%
- 質問2. 何歳くらいまで働きたいと考えていますか  
※無回答3%
- 65歳:30% 70歳:47% 75歳:3% 80歳:7% それ以上:10%
- 質問3. 老後は楽しそうだと思いますか  
※無回答4%
- YES:83% NO:13%
- 質問4. 老後のために今から何か準備していますか  
YES:47% NO:53%

- 質問5. (前問 YES の方) それほどのようなものですか
- それは秘密
  - 財産管理、断捨離、過去の記録のデータ化など
  - 家計が破綻しないよう質素・儉約に努める
  - 手に職(大型二種免許)、国家資格を取得
  - 日本全国短期滞在のための健康管理、適度な運動
  - 好きなことを見つけようとしている
  - 地元で趣味のサークル立ち上げ、老後資金の準備・運用など
  - ウォーキングなど軽い運動、絵を描く
  - 健康習慣作り(歩く、酒量抑制)、老後資金作り
  - 体力の維持、コミュニティへの参画(母校・趣味・サークル・旧職場)
  - ウォーキング、ゴルフ練習で脚力・体力を維持
  - 友人との趣味の継続、健康寿命に対する体力維持
  - ウォーキング(中大ナイトハイク以降)
  - 「老後」という考え方はしない

## 『老後について』 会員の自由執筆

### 老後の備えについて (清水昇、理工学部卒)

先日広報委員の池田冬彦さんからアンケートをいただき、改めて老後について考えてみました。

「自分にとっての老後とは？」なかなか難しい質問ですが、自分にとっての老後は、今年で百寿を迎えた父親が身近なお手本になっています。

サラリーマン時代は多趣味で週末は家にいたことのない父親でしたが、仕事をリタイアすると好きなゴルフの回数もめっきり減って時間を持て余すようになりました。大正生まれの男性特有なかもしれませんが、家事は一切やらず、口数も少なく、会社以外の付き合いを持たなかったせい、家族以外の社会との接点を失ってしまったよ

うです。このような父親の姿を見てきたので、自分は3つ以上の社会に属していたいと考えています。

第1は家庭、第2は会社、第3は友人、第4は地域です。幸いなことに白門57ネットのメンバーは「学友」という第3の社会に属しています。これは末永く大事にしていきたいですね。

自分は第4の地域での繋がりを作るため、趣味のバイクサークルを立ち上げ地域メンバーを募集して活動を行っています。

54歳のときにどうしても大きなバイクに乗りたくなり教習所に通って免許取得しました。コロナの影響もあり最近ブームになっていますが所謂リターンライダーというやつです。

最初は新潟のバイクショップのサークルに入れてもらいましたが、転勤などがあり現在は神奈川県と岐阜県で2つのサークルを運営しています。それぞれ男女15名程度で、定期的にツーリングへ行き観光とグルメを楽しんでいます。

今はジモティーというサークルメンバー募集を行えるネットツールもあり、企画・運営の労さえ惜しまなければ誰でも簡単にサークルを立ち上げることが可能です。興味のある方は、まずは趣味のサークルに加入して活動を始めることをお勧めします。新しい出会いがあって楽しいですよ。

あと老後資金の話ですが、資金計画について漠然とした不安を抱えている方も多いと思います。

自分は資産管理ソフト「マネーフォワード」を使って全ての入金・銀行預金高・有価証券・不動産評価額・年金残高などの資産を一元管理しています。

これを使うと将来のリフォーム、車購入、生前贈与など、大きな出費も含め生涯の資産推移がシミュレーションできます。実際の老後資金を見える化して将来計画を立てると安心できると思います。皆さんのご参考になれば幸いです。



### 老後の楽しい暮らし方 (奥田和生、法学部卒)

人生の林住期(\*五木寛之がその著書の中で説いた古代インドにおける人生のセカンドライフの別名)をどう生きるか。

いわゆる定年後の楽しみの定番とされる「酒」と「ゴルフ」。この二大テーマに関してはドクターストップなる永久追放処分を宣告された以上追求するのはもはや論外。

残ったのは幼少の頃から嵌っている『鉄道』。それも青春18切符を駆使した鈍行列車にゆらり揺られる『乗り鉄本線・日本旅』。但しこれも年を重ねるにつれ、さすがに「乗っているだけでは勿体

ない」との思いが募り、せつかなら何か目的を、ということで還暦を機に組み込んだのが青春18他私鉄各社の特別切符と連動させた『関西神仏霊場154社寺参詣』並びに『初代神武天皇から124代昭和天皇に至る歴代天皇陵遥拝』(尚、私は決して右翼の手先ではありませんので念のため)。

御朱印帳を捲ると、「神と仏の聖地を訪れる霊場巡礼は祈りのみならず、美しき古きよき日本と自分自身に出会う再生の旅である」等と高尚なお題目が書

かれてはいるものの、やっつことは「ただひたすら歩く」「石段を登る」「お堂で瞑想に浸る」「二礼二拍手一礼」。

そんなオヤジの姿を傍から見ていた娘曰く、「いつから修行僧になったん?」。まあ修行僧になる云々はさておき、単なる自己満足の趣味の世界で悟りの境地に達することがもしてできるなら『残りの人生儲けもの!』なんて呑気な事を考えている今日この頃であります。



### 我が年代の『セカンドライフ感』 (浜田英明、経済学部卒)

57ネットの会員は全員が60歳の還暦を迎え、大半の会員はあと2~3年後に65歳となるのだから。僕は来年63歳となる。60歳で定年となり「定年により職を解く」の辞令を本社で受け、その後は1年毎の契約で再雇用されているが、仕事の中身はその前と全く変わっておらず、まだまださくぶる元気で毎日通勤電車に乗って職場に向かっている。

ローソンからサントリーに移った新浪社長が提唱した「45歳定年制」が物議を醸しているが、この論点は雇用の流動化にある。僕

たちはその年を過ぎてしまっている。僕は65歳で今までの日常にお別れし別のライフスタイルを目指していく「65歳セカンドライフ開始説」を提唱したい。これは今の日常との惜別だ。そして新しいライフスタイルを65歳を境に個々人で創設していく事を意味する。今までの仕事を続けるにせよ別次元の自己の指向する姿を実現する。広く「学び直し」が必要かもしれないし、心身ともに元気な体力のうちにやりたい事を実現することが、いつかは必ず訪れる「寝

たきり姿の老後と人生の終焉」の前に必要な行動だろう。

僕の事を書いてみよう。僕は現時点では65歳で会社を退職する。そして70歳になるまでの5年間で会社経験で蓄積した知識を広く社会還元できる公的な機関でキーパーに勤めつつ、主に日本全国を、趣味を同じくする女房と二人で旅してみたいと思っている。

また、中大法学部の通信課程で、死んだオヤジ・法務省の役人だった・・・を思い出しながら法律を学びたいと思っている。それには先立つ物の懐具合と相談

が必要なため現在ストック作業中ではある。僕の会社も70歳までの雇用制度が昨年開始となったが、70歳と65歳、この5年の重みを考えた末の結論として「65歳セカンドライフ開始」を選択したものだ。

女房がこう僕に問うた。「山登りもしてみたい。70歳になって出来るかな?」

ちなみに僕と女房は同じ昭和34年生まれ、僕は2月の早生まれのため高校までは僕が一学年先輩となるわけである。



## 全国分会だより

## 各研究会だより

## 関西分会

今回は、役員4名による連作にて関西の世相・社会現象・お国自慢を川柳にて披露させていただきます。  
名付けて『断腸亭日乗もどき川柳・関西版』

## ◆川柳

「地価上昇日本一も今は昔 インバウンド消滅で 一転 地価下落日本一」(大阪ミナミ・道頓堀地区)

「おめでたき世界遺産認定にも沈黙守る宮内庁 一体誰が埋葬されてる?」(大阪府堺市・伝「仁徳天皇陵古墳」)

「双子誕生で沸く上野 でもパンダ見るなら 七頭そろい踏みのもちらがお得」(和歌山・アドベンチャーワールド)

「通勤時 空いた座席に 風通る」  
(リモートワークのためか、いつも満員だった通勤電車の座席に空席がある。私の隣の座席も空いていて、そこに空いた窓からの風が通るのを感じ、同時にコロナ禍であることと一抹の寂しさを感じる)

## 北海道分会

こんにちは。北海道分会で幹事長をしている松井郁子です。コロナもやっと少し落ち着いてきたようなので、皆さんが札幌にいらしたときの参考に地元紹介をしたいと思います。

私は札幌市中央区の宮の森というところに住んでいます。近くには北海道神宮や動物園、野球場のある円山公園があります。

私は、雪のない時期(4月から11月)は、ほぼ毎日40分ほど散歩をしています。特に円山動物園の入口から入る遊歩道(木道)は、都会の真ん中にあるとは思えないような、森の中での癒しスポットです。とてもかわいいいすに、よく遭遇します。

北海道神宮を出てすぐのところ

に、私のお気に入りの hamburger & café の bit better という店があります。道産牛と豚の合いびき肉のハンバーグがメインのランチには、旬の野菜の彩りの美しいサラダや33種類の雑穀入りごはんなどが付き、ボリュームがあって、かつヘルシーです。ドリンクメニューも充実しています。札幌に来たら訪れる価値あります。お声がけいただければご案内します。(松井郁子)



## ゴルフ研究会(略称シバ研)

シバ研はコロナで騒然としていた時期も活動を休止せず、参加可能なメンバーで定期的にコンペを開催してきました。

ゴルフは4人単位、アウトドアで一日を過ごせ、施設の感染症対策も万全なのでコロナ禍でコミュニケーションを図るためには最適なスポーツだと思います。

春季・秋季の定例コンペは富士山を望む山梨県・大月カントリークラブで開催しています。今年は春の優勝は平輪さん(←実力通り)、秋の優勝は私(←ハンドに恵まれた)でした。

いつも天気にも恵まれ、スコアを気にせずワイワイ楽しくやっています。仕事がひと段落して参加メンバーも少しずつ増えてきましたが、いまだに女子会員の参加があ



「コロナ禍で 変わらず香る 金木屋」  
(世の中はコロナで状況が大きく変わり、人々も今までと違った生活を強いられているが、季節は淡々と今までと変わらずに過ぎて行っている)

「箱根路をいざ駆け抜けるCランナー、白門同窓の願いを込めて」  
(兵庫県出身 藤原監督、山本コーチ、頑張れ!!)

「コロナ越え 五国豊穰 夢近し」  
(兵庫県は旧藩 摂津、丹波、但馬、播磨 淡路の5国から成り立っています。五穀豊穰に準えて、コロナに打ち勝ち五国の繁栄を祈願します)

「鯉敵(こいがたき) 燕返しで 虎夢散(とらむざん)」  
(広島カープの抵抗、ヤクルトの終盤の巻き返しで、無惨にも阪神のリーグ優勝の夢は散りました・・・涙)  
(奥田和生 平井幸子 安田善彦 磯野洋一)

## 九州分会

浜田前会長の御尽力により一昨年発会致しました九州分会ですが、前回のご報告以降も全く活動しておりません。コロナ禍の状況次第では今後何らかの活動を開始したいと考えております。

年齢的に、九州にUターン、Jターン、若しくは移住される会員もこれから多くなると思いますので、会員の掘り起こしにも努めてまいります。いずれにせよ、九州分会はそろそろ冬眠から目覚めたいと存じます。啓蟄が待ち遠しい九州分会です。(原田秋彦)

居酒屋研究会  
(略称イザ研)

居酒屋研究会は、その性質上、コロナ禍での活動は適いません。残念ながら昨期(18期)は休会、昨年2月(17期)の武蔵小山・徳のかを最後に活動が止まっています。

しかし昨今はワクチンも行き渡り状況は改善されつつあります。今期の開催についても目処は立っておりませんが、状況が許せば1回は開催したいと思っています。

コロナのせいで新たなお店の開拓も滞っておりここに紹介は適いませんが、コロナ禍でも美味しい日本酒はどんどん作られています。うまい肴とお酒、そして楽しい仲間がいればということなすね。2022年のイザ研をお待ちください。(岡日出夫)

## トリップ研究会(略称トリ研)

こんにちはトリ研お世話係の乗兼です。今期はリアル活動ができず、代案として、2021年1月2・3日に「箱根駅伝で遊ぼう!」と題し、ウェビナーで母校の応援をいたしました。長時間の応援ですので、各自のペースに合わせ、出入り自由、テレビを見ながらサイト情報を共有しての観戦スタイルです。結果は残念なものでしたが、中継地点ごとにみんなでワイガヤして楽しむのも、このご時世ならではの臨場感でした。

先日10月23日の予選会は無事高順位で通過しましたので、2022年のお正月もウェビナー応援で「気」と「念」を送りたいと思っています。人流抑制により前例のない局面に立たされているレジャー産業ですが、少しずつ光明が見えているのも事実

です。  
「リベンジ旅行なるムーブメントも起こっているとのこと。旅行業界に身を置く者としては、大切な人のために移動を我慢してこられた人々が、改めて、「交流の価値」を実感されていると感じています。

トリ研も今後、社会環境を横目にしながら、全国の仲間と安心安全な交流ができるよう、ハイブリッドなイベントを模索していきます!

(乗兼 浩明)



## 商学部講演会「働くこと入門」(乗兼浩明、法学部卒)

11月11日、57 ネット幹事長・年次支部協議会副代表幹事の乗兼浩明さんが、商学部の講座「働くこと入門 9」の客員講師として、「『ツーリズム産業』の話をしてしよう」というテーマで約250名の学生にオンライン授業を行いました。この授業を現地(学生会会議室)にて、聴講させていただきました。

自己紹介に続き、「1. 旅行業の話」「2. ツーリズム産業の話

」「3. 皆さんへのメッセージ」という順に、ご自身の体験を交えながら、とてもわかりやすく講義は進んでいきました。

心に残っているのは、「人は財産。」「旅行業というのは単に旅行商品を販売するのではなく、旅行を使ってお客様の課題を解決すること。大切なのはお客様に寄り添う心。」「第一希望通りの人生なんて無い。例え第一希望じゃなくても今のポジションで良かった

と思える自分になる。」という言葉です。

70分の予定の講義をびったり70分で終わらせたのには、居合わせた皆で驚嘆しました。流石にJTJで長年人財開発の研修を担当なさっている方です。その後の学生からの質問にも即座に的確なお答えがあり、講座は終了となりました。

(村松聖子)



## 「Chuo Vision 2025」に基づく都心キャンパスの整備状況

1. 茗荷谷キャンパス(東京都文京区、地下鉄丸ノ内線「茗荷谷」駅徒歩1分、2023年4月開設予定)法学部(全学年)、大学院法学研究科を多摩キャンパス(東京都八王子市)から茗荷谷キャンパスへ移転し、併せて法曹、公務員養成機能を担う「炎の塔」の機能も同時に移転する。校舎外観は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとしつつ、低層階には旧駿河台校舎と同じ尖塔型アーチを取り入れる。大学施設のほか、文京区の地域活動センターや保育所などが併設される予定で、地域との共生、地域への貢献を目指す。

【写真1】茗荷谷キャンパス建設中現場(設計:日建設計、施工:清水建設)。春日通り反対側から撮影。左が茗荷谷駅、右側が跡見学園。周辺はお茶の水女子大、拓殖大、筑波大東京キャンパスなどもあり、まさに文京区キャンパスタウン。



【写真1】茗荷谷キャンパス

2. 駿河台キャンパス(東京都千代田区、JR中央線「御茶ノ水」駅徒歩4分、2023年4月開設予定)旧駿河台記念館を20階建て高層校舎に建て替えて開設する。こちらには中央大学法科大学院ロースクールが東京都新宿区の市ヶ谷キャンパスから移転する予定で、茗荷谷キャンパスとは地下鉄丸ノ内線で3駅と近く、法学部との連携を強化する。ほかに専門職大学院法務研究科及び戦略経営研究科が入るほか、学生会本部機能もここに置くようだ。後楽園キャンパスも同じ丸ノ内線であり、文理融合による共同科目を開講予定。総合大学ならではのシナジーを創出していくこともテーマとなっている。

【写真2】駿河台キャンパス建設中現場(設計:日建設計、施工:大成建設)。池田坂からJR御茶ノ水駅方向を見たところ。手前左は日大歯学部、手前右は日大理工学部。奥左が新御茶ノ水ビル、奥右がソラシティ。



【写真2】駿河台キャンパス

(池田冬彦)

## 57 ネット会員の著作紹介 ※一部非会員含む

濱嘉之氏(本名・江藤史朗、法学部卒)

■元警察官の肩書を持つ、言わずと知れた警察小説の第一人者。文藝春秋、講談社から、コンスタントに書き下ろし小説を出せる作家はこの人だけ。

■最新刊『院内刑事 シャドウ・ペイシェンツ』講談社文庫(2021年7月)

【公安警察OBが大病院を守る人気シリーズの第5弾】  
看護師の一言から判明した中国人患者のなりすましは、いつしか四百人の機動隊とローリング族が闘う事態へ!

東谷由香氏(経済学部卒)

■大学時代はモデル事務所に所属し、CM、映画・舞台に出演も。専業主婦として子育ての後2010年、(株)ウーノ・アクティブを設立。上場企業を中心に女性向け管理職研修なども手掛けている。

■初出版『働き方改革で伸びる女性 つぶれる女性』日本経済新聞出版(2020年6月)

「どうせ私なんか!」って勝手にあきらめていない?仕事の幸せと自分の幸せを両立する方法がここにある。

石口修氏(法学部卒)

■現在、愛知大学大学院法務研究科教授。専門は、民法、ドイツ民法(物権法、担保法、債務法)、主として担保権の性質論。

■『民法要論I 民法総則』成文堂(2019年)『民法要論II 物件法』成文堂(2017年)他

藤井輝明氏(法学部卒、非会員)

■2歳の頃、顔の右半分にふくらみが現れ、そのため幼少期からいじめにあい、つらい少年期を過ごす。顔に病気や傷を抱える人の偏見・蔑視をなくすため、自身の体験を基にして全国各地で講演活動や著作活動を行っていた。2021年5月5日、ご病気で急逝された。

■主な著書『てるちゃんのかお』金の星社(2011年)『笑顔で生きる一「容貌障害と闘った五十年」』講談社(2011年)『笑う顔には福来る』NHK出版(2006年)

高田郁氏(法学部卒、非会員)

■1993年、漫画原作者として活動を始めるが、その後、時代小説家に転身し、2008年に短編集『出世花』で小説家デビュー。『みをつくし料理帖』シリーズ(ハルキ文庫)は、全10巻で300万部を超える大ヒットとなり、2020年に角川春樹監督で映画化された。

(竹林聡)

## 編集後記

本号から紙面を拡大し、イベント報告、分会・研究会日より、アンケート、自由執筆など、会員情報が増えましたのでお楽しみください。

白門57ネット通信第8号を発行するにあたり、原稿を寄せて

くださった皆様に心より御礼申し上げます。(後山哲三)

